

平成26年度「みえの現場・すごいやんかトーク」(四日市市)の概要

12月14日(日)に四日市市の四日市市消防本部で「みえの現場・すごいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「四日市市消防団サルビア分団」関係者の皆さん8名の方にお集まりいただき、活動内容や課題、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

副分団長から分団の活動について紹介いただいた後、メンバーの皆さんから、自己紹介していただきました。

(活動内容紹介)

- 地震や火事について子どもたちに知ってもらうため、大型紙芝居を使って保育園・幼稚園を回っている。2サイクル目に入っており、前よりグレードアップした活動になっている。防災カルタも作成して、子どもたちを啓発している。折り紙で指人形をつくったり、話のネタも進化させている。子どもに分かれれば大人も分かってもらえるだろうと思い、大人を対象にした研修も始めた。どうしたらよくなるかを常に考えており、さらによくしていきたい。
- 東日本大震災の復興支援に参加して、人のつながりの大切さを実感した。地域で少しでも力になればと思い、サルビア分団で活動している。

Q、この活動に参加して、良かったこと、嬉しかったこと、感動したことはありますか？

- 消防団がどんな活動をしているか知らなかったが、サルビア分団に参加したことによって、仕事をしながら頑張っていることや、水があふれたときはどうするかなど、

活動内容がよく分かった。明るく前向きに活動しており、次はもっとよくしようとアイデアを沢山出し合っている。

- 「はしご登り」をすることで他の地区の人とも知り合えた。はじめは女性に「はしご登り」ができるのか不安だったが、年々うまく登れるようになり、他の分団にも仲良しが増えて、色々な話ができるようになった。
- 紙芝居の最中に泣き出してしまう子どもがいる。ライター遊びや地震の怖さが目に見えて分かるからだと思うので、泣いても止めずに紙芝居を続けている。
- 以前は、応急手当や救命の講習を年1回程度しか受講していなかったが、今は毎月受講しており、人にも教えられるようになった。今までは不安も強かったが、知識として自分の中に定着したように感じている。紙芝居ではいつも緊張するが、何回も続けることで、少し自信がついてきた。
- 制服にあこがれて消防団活動をやりたいと思っていたときに、地元の人に誘われてサルビア分団に入った。活動の中で様々な企業を訪問しており、自分の会社と比較でき、視野が広がった。中には、150人ぐらいの社員全員が、3日間に分けて救命講習を受けてくれた企業もあった。
- 部活のような雰囲気楽しい。夫も消防団員なので、活動に対する家族の理解がある。子どもたちは、大人は消防団に入るものと思っている。
- 趣味はサルビア分団と言うほど活動が大好きである。家族の協力のおかげで活動に没頭でき、感謝している。一緒に活動できる仲間がいることが嬉しく、サルビア分団は人生の一部と感じている。
- テレビ取材を受けたときに、終了後のインタビューで子どもが「私の命は私が守る」と言ってくれた。「地震の時は頭を守る」など、紙芝居で伝えたかったことを子どもたちが認識してくれることが嬉しい。大人向け研修では、終了後のアンケートがほとんど返ってきた。大人にも話が伝わっていることが実感できて嬉しかった。

Q.この活動をより良くしていくための課題はありますか？

- 先日の長野県の地震では、地区の助け合いで死者が出なかった。被災時にサルビアとして活動するところまで至っていないと思うので、何ができるか考えていきたい。また、隣接する鈴鹿市や桑名市との連携も課題と感じている。
- 別の市で働いており、消防団の活動で休みたいとは言いにくい。有給休暇を使って活動しているのが現状であり、市町や会社によって温度差があるように感じている。
- 定員15名に1名足りない14名で活動しており、もっと団員を増やしていきたい。消防団に入ると何か特典があれば、もっと集められるように思う。
- 会社の掲示板で、たまたま団員募集のお知らせを見たのが入団のきっかけである。消防団のことが余り知られていないと感じている。
- サルビア分団の活動が活発すぎて、入団を尻込みされることがある。男性も仕事の関係上、夜間の活動になかなか参加できないという声もある。消防団に入ることのメリットのPRなど、県をあげて盛り上げてほしい。
- 防災・減災の知識が不足しているので、もっと勉強したい。
- 小中高の児童・生徒にも対象を広げたい。バケツリレー練習では、中学生が自分で改善方法を考えてくれた。保護者にも聞いてもらえるよう、紙芝居を進化させたい。

○消防団員の高齢化が進んでいる中で、定年制の導入も検討している。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

- 企業の活動には温度差があり、何をしてよいか分からないという会社も多い。みえ防災・減災センターを三重大学と立ち上げたので、相談窓口として利用してほしい。消防団活動を応援している企業を、行政が応援する仕組みもつくろうと思っている。
- 消防団活動に参加してもらおうインセンティブは重要である。楽しいことがあった方がよい。色んな人が消防団を応援していることを分かってもらうことが大事である。
- 消防団の活動や実態が知られていない。多くの人に消防団のことを知っていただくのが大事である。皆さんは明るく楽しく活動しており、重要な役割を担っている。
- 女性防災リーダーを育成する取組を県で行っている。女性・若者の防災人材を育てたいと思っているので、研修等を案内していきたい。
- 消防団員が高齢化しているので、若者の入団を応援する仕組みや、勤務地での入団等について、県全体で取り組みたい。



【「四日市市消防団サルビア分団」の皆さんとは】

「四日市市消防団サルビア分団」は、平成17年9月に消防団の活性化対策の一助とするため結成された女性だけの分団です。災害出動を行わず、幼児向けの大型紙芝居（火災編・地震編）や各種防災ワークショップ、応急手当普及講習での指導などの防災啓発活動を中心に活動しており、毎月第2水曜日は、市内の保育園や幼稚園で大型紙芝居などの公演を行っている皆さんです。